

知的障害特別支援学校小学部児童の キャリア発達を促す支援の工夫

—遊びの指導における「アセスメントシート」・「支援シート」を活用して—

長期研修員 山崎 千賀子

1. 主題設定の理由

現代の社会的な問題

- ・若者の勤労観・職業意識の希薄さ
- ・ニート、フリーターの増加
- ・就職後3年以内での離職者の増加など

キャリア教育の 必要性

平成11年
中央教育審議会答申

学校生活と職業生活の接続の
改善のための具体的方策として、
キャリア教育を小学校段階から
発達段階に応じて実施する必要
がある。

特別支援教育

平成21年
学習指導要領改訂の柱の一つ

自立と社会参加に向けた
職業教育の充実

キャリア教育 推進の重要性

しかし!

現状と課題

キャリア教育のとらえ方

- ・言葉のイメージから → レベルが高いもの?
- ・職業教育・進路教育と同じ
→ 高等部や中学部で行う作業学習が中心?

キャリア教育の取組の内容

- ・新たに特別な教育が必要?



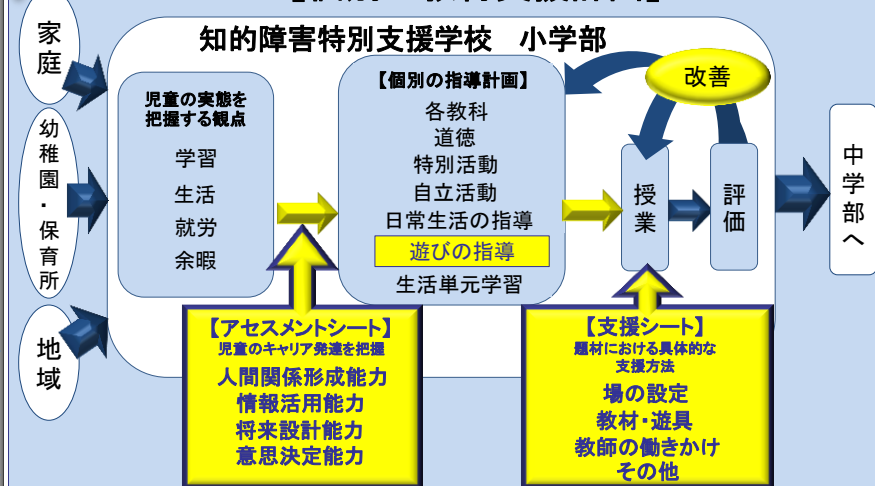
「キャリア教育」についての一人一人の教師の
受け止め方・取組の内容にばらつき

そこで!

今までの取組に、キャリア教育の
視点を取り入れよう!

研究構想

【個別の教育支援計画】



2. 研究のねらい

知的障害特別支援学校小学部における遊びの指導において、「アセスメントシート」・「支援シート」の作成・活用を通して授業実践を行うことにより、児童のキャリア発達を促す支援方法の有効性を明らかにする。

3. 研究の経過

(1) アセスメントシートの活用

実態把握

遊びの指導との関連性

目標設定

児童の実態を、
キャリア教育の視点
からもチェック！

4つの能力領域に、
基礎的能力、さらに詳
しい具体的な基礎的能
力の項目を立てました。

一つ一つの項目を5つ
のステップでチェック
します。

児童のキャリア発達と
遊びの指導との関連性
をチェック！

遊びの指導で取り組み
たいキャリア発達の項
目をチェックします。

◎のついた項目と
上のステップで支援が
必要な項目を対応させ
ると、関連性が分かり
ます。

抽出児童Aのアセスメントシート(一部)

基礎的能力	人間関係形成能力			
	自己理解	他者理解	集団参加	協力・共同
興味のあること、好きなものをもち、増やす	自分の良いところ、得意なことに気付く	友達を意欲して活動する	友達の良いところや、自分と違うところに気付く	友達と一緒に活動する
① 教師や家族と一緒に				
② 教師や家族の支援で				
③ 教師や家族の一部の支援で	○	○	○	○
④ 自分から進んで	○	○		○
⑤ 見通しをもって最後まで、適切に				

キャリア発達にかかわる
4つの能力領域

- 人間関係形成能力
- 情報活用能力
- 将来設計能力
- 意思決定能力

教師間での話し合いに
アセスメントシートを活用
すると、より客観的に児童の
実態が把握できます。



基礎的能力	人間関係形成能力			
	自己理解	他者理解	集団参加	協力・共同
興味のあること、好きなものをもち、増やす	自分の良いところ、得意なことに気付く	友達を意欲して活動する	友達の良いところや、自分と違うところに気付く	友達と一緒に活動する
① 教師や家族と一緒に				
② 教師や家族の支援で				
③ 教師や家族の一部の支援で	○	○	○	○
④ 自分から進んで	○	○		○
⑤ 見通しをもって最後まで、適切に				
遊びの指導で取り組みたい キャリア発達 (◎は主なもの、○は関連するもの)	○	○	◎	◎
遊びの指導における 年間の目標	・友達に働きかけたり誘ったりして一緒に遊ぶ。			

遊びの指導の年間の目標・題材
の目標を設定！

児童一人一人について、
遊びの指導とキャリア発達との
関連性から、遊びの指導の年間の
目標を設定

この目標は、
個別の指導計画の目標
と関連します。



遊びの指導の題材を設定

遊びの指導の題材の目標を設定

本題材「ゴージャンドで遊ぼう」(全5時間計画)

抽出児童A・Bのキャリア発達と遊びの指導の目標

【人】:人間関係形成能力、【将】:将来設計能力

	遊びの指導における 現在のキャリア発達	遊びの指導における 年間の目標	本題材の目標
児童A	・教師の一部の支援によって、友達と一緒に仲良く遊んでいる。【人】 ・教師の一部の支援によって、身体を動かして遊んでいる。【将】	・友達に働きかけたり誘ったりして一緒に遊ぶ。 ・身体を思う存分動かして、楽しく遊ぶ。	・教師の言葉を聞いて、友達を誘って遊具で遊ぶ。 ・教師の誘いを受け入れたり教師や友達が遊ぶ姿を見たりして、身体を動かして遊ぶ。
児童B	・教師の支援によって、友達と一緒に遊んでいる。【人】 ・教師と一緒に、身体を動かして遊んでいる。【将】	・いろいろな素材や道具、遊具を使って友達と遊ぶ。	・教師の誘いを受け入れて、友達と遊具で遊ぶ。 ・教師と一緒に身体を動かして遊ぶ。

(2) 支援シートの活用

場の設定

教材・遊具

教師の働きかけ

人間関係形成能力	
題材の目標	◎教師の言葉を聞いて、友達を誘って遊具で遊ぶ。
支援に生かしたいキャリア発達	・教師には自分から進んで話しかけたり、かかわって遊んだりする。 ・教師の言葉かけて、友達に声をかけたり物を介して働きかけたりすることもある。
場の設定	意欲的に遊べるように、台車にスロープとトンネルを組み合わせて設置する。 いろいろな遊具に目を向けやすいように、スロープと迷路を近くに設置する。風船も近くに置く。 さらに迷路に興味をもち、且つ身体を動かして遊ぶ姿が増えるように、途中で迷路を付け足す時間(合体タイム)を設ける。
教材・遊具	友達と一緒に持って遊べるように、バルーンを活用する。 風船バレー用に、割れにくい素材の風船を用意する。 友達と一緒に乗れる大きさの台車を用意する。 友達の様子が見えたり声をかけたりできるように、迷路に小さな窓を付ける。
教師の働きかけ	いろいろな遊具を使って、教師も一緒に楽しく遊ぶ。 台車でスロープを滑るときには、「3、2、1、スタート!」など、かけ声をかけて楽しい雰囲気を作る。 友達を意識できるように、教師が友達の名前を呼びながら遊んだり、友達の遊びの様子を言葉で伝えたりする。 友達と遊ぶときには、友達の名前を呼んでみるように言葉をかける。 台車に乗るときは、教師が「一緒に乗る?」と聞いて他児童も誘ったり、A児に「～を誘ってみたい」や「だれと乗る?」と聞いたりする。

支援シートの活用方法

- ・支援シートを活用した話し合い
授業の前に、「場の設定」「教材・遊具」「教師の働きかけ」の観点から、支援方法を教師間で検討する。
- ・授業後の振り返り
児童の様子を振り返り、支援方法の有効性を検討する。
改善が必要な支援方法は、支援シートに加筆・訂正する。

場の設定



一つ一つの遊具の楽しさを知ってもらえるように、遊具を徐々に増やしながらか場を設定しました。

1時間目



より興味をもって楽しく遊べるように、台車にトンネルとスロープを組み合わせました。

2時間目



いろいろな遊具に目を向けて遊べるように、台車と迷路、風船を近くに設置しました。

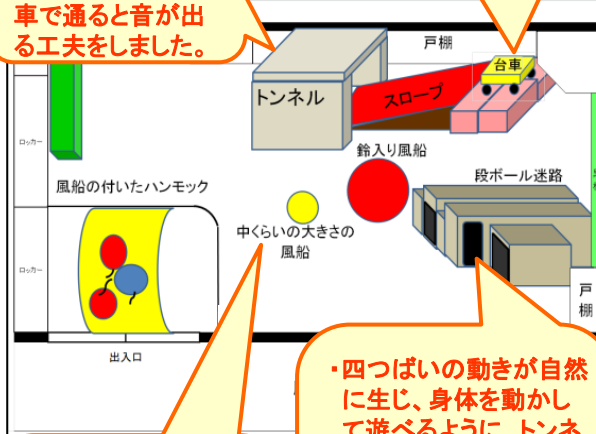
3時間目～5時間目



教材・遊具

興味をもって遊べるように、トンネルに鈴を付けて、台車で通ると音が出る工夫をしました。

友達とかかわって遊べるように、一緒に乗れる大きさの台車を用意しました。



・身体を動かして遊べるように、割れにくい素材の風船や大きな風船を用意しました。

・興味をもって遊べるように、鈴を入れて音が出る工夫をしました。

・四つばいの動きが自然に生じ、身体を動かして遊べるように、トンネル状の迷路にしました。

・友達に目を向けて遊べるように、小さな窓を付けました。

・より興味をもって楽しく遊べるように、秘密の扉を付けたり、授業の途中で迷路を付け足したりしました。

教師の働きかけ



遊びの指導における、教師の基本的な姿勢

児童と同じ立場に立って、一緒に楽しく遊ぶ



児童が友達を意識して遊ぶための支援

・教師が友達の名前を呼んで手本となります

「～ちゃん」
「～くん」

・友達が遊ぶ様子を教師が言葉で伝えます

「～ちゃんが台車に乗るよ」
「～くんが迷路に入ったよ」

・児童が友達を誘って遊べるように、教師が言葉をかけます

「だれと台車に乗る?」
「～くんを誘ってみたい」
「肩をたたいて呼んでみたい」
(誘っていることに友達が気付くように)

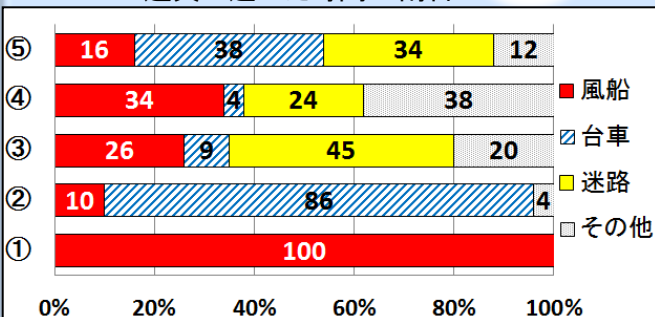
4. 研究の結果と考察

抽出児童A



※①～⑤は
1時間目～5時間目

3つの遊具で遊んだ時間の割合



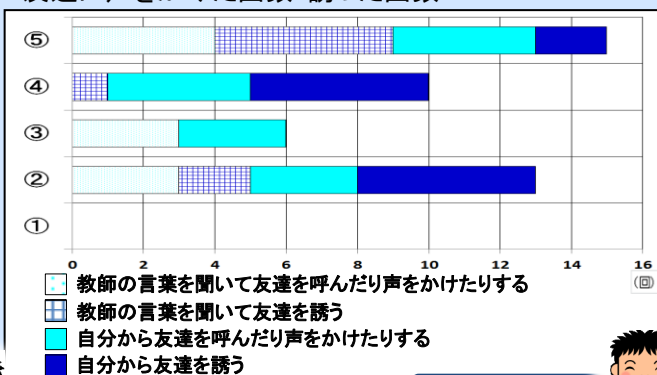
有効だった支援

- トンネル状の迷路、秘密の扉や途中で迷路をつなげる合体タイムなど、迷路の工夫
- 友達が教師と一緒に楽しく遊ぶ様子を見ること

児童Aの様子

風船や迷路で、身体を思う存分動かして遊んでいた

友達に声をかけた回数・誘った回数



有効だった支援

- 台車や迷路の活用
- 友達が遊ぶ様子を教師が言葉で伝えること
- 『だれと台車に乗る?』『～くんを誘ってみたら』などの教師の言葉かけ

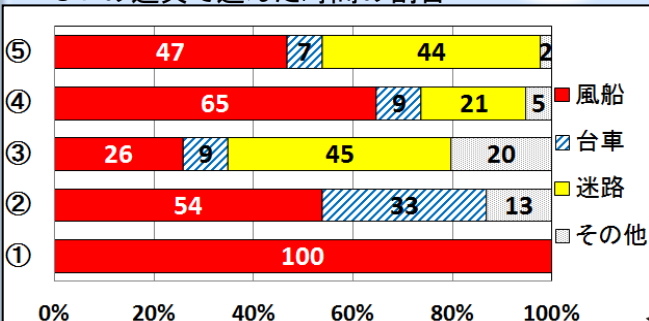
児童Aの様子

- 友達を呼んだり、声をかけたりして遊んでいた
- 友達を誘って遊んでいた

抽出児童B



3つの遊具で遊んだ時間の割合



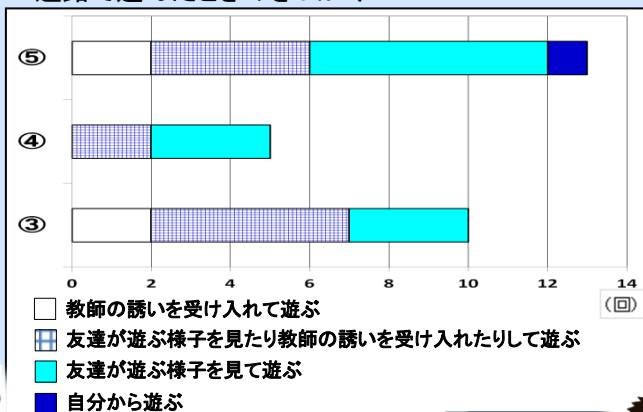
有効だった支援

- 割れにくい素材の風船、大きな風船など、風船の工夫
- 教師と一緒に楽しく遊んだこと
- 友達が教師と一緒に楽しく遊ぶ様子を見ること

児童Bの様子

風船で、教師と一緒に身体を動かして遊んでいた

迷路で遊んだときのきっかけ



有効だった支援

- トンネル状の迷路、秘密の扉や途中で迷路を付け足す合体タイムなど、迷路の工夫
- 友達が教師と一緒に楽しく遊ぶ様子を見ること

児童Bの様子

- 友達と一緒に迷路に入って遊んでいた

5. 研究のまとめ

成果

- アセスメントシートの活用により、児童の実態をキャリア教育の視点からより多面的にとらえることができ、児童のキャリア発達を的確に把握できた。また、キャリア教育の視点から、遊びの指導の目標を設定できた。
- 支援シートの活用により、題材における個別のねらいに対して、支援方法をより具体的に、焦点化して考えることができ、児童のキャリア発達を促すことに役立った。

課題

- アセスメントシートは、遊びの指導以外の教育活動においても活用できるものである。アセスメントシートを活用して、児童のキャリア発達を促すための様々な教育活動を積み重ねながら、他教師、及び他学部にも伝達し広めていきたい。
- 教師によって児童の実態のとらえ方・支援に対する考え方が様々であり、支援シートを活用して、教師間でどのように連携していくかを調整する必要がある。